

人文学部 後期日程 令和4年度入学試験「小論文」

解答例および出題意図

I

問1（解答例）

まずドイツ語で5つの文を書いてそれを日本語に訳し、今度は後続の5つの文を日本語で書き、それをドイツ語に訳し、以後同様に二言語を行き来しながら書き上げた。(76字)

問2（解答例）

本文では作家・多和田葉子における日本語／ドイツ語の併用とその練磨による文学作品の創作の実践が語られている。これは母語／非母語の絶えざる往還による究極的な文化的冒険といえよう。だが、作家ならずとも我々は日常的な次元の外国語体験によって、異文化理解のみならず、母語に対しても反省的思考を発展させているのである。各言語において現実の切り取り方は異なり、例えば日本語ではある程度以上の温度であれば「湯」であり、「水」とは言わないので、英語の“water”と日本語の「水」は一対一対応していない。また、日本語の一人称主語の「私」「俺」「吾輩」等は全て英語ではIとなり、ニュアンスが区別できない。外国語体験とは母語において自分が自明だと思ってきた世界の分節がいったん宙づりにされる体験である。確かに、母語と異なる言語の運用は容易ではなく、自分が親しんできた体系とは異なる複雑な体系の中を歩いていく足元はしばしばおぼつかない。だが、外国語体験を経て母語へと戻った我々は、自明と思っていた世界に対し、複眼的な視点からこれを再解釈する、すなわち母語のみでは得られない創造的な冒険を生きることができるのである。(495字)

II

問1（解答例）

「この世に生を受けているものすべて、どれが歌をよまないことがあろうか。すべての生あるものが歌をよむのだ」という意。著者は生あるもの全てがうたう、とする視点を無機質なものにまで拡張させ、水道管でさえ「うたう」ものとしてとらえようとしたから。(119字)

問2（1）（解答例）

著者の主張は、その地に根づいてきた地名こそが、その音の響きを含め、地域の歴史や地形にまつわる知識を継承できるとするものである。そのためこうした伝統や人々の記憶の連鎖の切断じたいが、著者によれば「愚行」となる。しかし一方、「住居表示に関する法

律」は、建物表記等に規則性を生み出し、地域・住所の把握や整理のし易さなどの利便性もたらす。これにより、地域外の来訪者による地区情報の把握、郵便配達や有事の際の緊急車両の往来のしやすさ等、効率的な人の移動や物流が可能になる。以上の点から、同法律の施行は、社会基盤や生活全般に大きな利益をもたらすと言え、有用なものともみなすことができる。(286字)

問2(2)

採点基準

- (1) 文章の構想・表現が的確である(構想・表現力)
- (2) 教養・知識が十分である(教養・知識)
- (3) 豊かな創造性に裏付けられている(創造性)